

平成25年度天皇杯受賞者受賞理由概要
水産部門

新たなアサリ養殖技術の確立に大きく貢献

○氏名又は名称 鳥羽磯部漁業協同組合浦村支所浦村アサリ研究会
(代表 浅尾 大輔)

○所在地 三重県鳥羽市

○出品財 経営(漁業経営改善)

○受賞理由

・地域の概要

三重県鳥羽市は、三重県東部志摩半島にある漁業と観光の町である。浦村地区では、昭和初期にカキ養殖が開始され、現在は、全国有数のカキ生産地である三重県におけるカキ生産量の6割以上を占めている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

浦村アサリ研究会(以下、「受賞者」という)は、研究機関によるアサリ採苗試験成果の実用化に向けて平成22年に若手カキ養殖業者6名で結成された。受賞者は研究機関と協力し、アサリの採苗試験や養殖試験を繰り返しながら商業ベースでの新たなアサリ養殖技術の確立に取組み、その前進に大きな貢献を果たしている。また、最近では、活動の幅を新しい二枚貝養殖、未利用海藻アカモクの利用等にも広げ、カキ養殖以外で収入を得る手段を積極的に研究している。

・受賞者の特色

(1) 新たなアサリ養殖技術

① 種とり(天然採苗)

これまでのアサリ養殖やアサリの種苗放流等では、着底した稚貝を購入又は採捕して利用してきたが、受賞者は、浮遊幼生期のアサリを採苗ネットを用いて着底させる方法を取っており、これまでは漁獲資源として利用される可能性の低かった資源を養殖用種苗として活用することを実現している。

② 垂下式養殖技術の準用

通常アサリは干潟の砂泥で成長するが、カキ養殖で用いる垂下式養殖技術を準用することで、餌となるプランクトンの効率的給餌を実現し、天然アサリと比較して短時間で出荷サイズまで成長させることを可能とした。これにより、商業ベースでのアサリ養殖新技術の確立に大きく前進した。

③ カキ殻加工固形物の活用による作業性の向上

採苗や垂下式養殖の行程において、砂利の代わりに、より軽いカキ殻加工固形物(カキ養殖業者から排出されるカキ殻を用いて地元企業が開発)を用いることで作業の負担軽減を図っている。

(2) カキ養殖とアサリ養殖の複合経営による収入の向上

本業のカキ養殖の仕事がなくなる時期にアサリ養殖の作業が可能であること、全国的にアサリ資源が減少する中で、国産アサリへの需要は堅調であることから、これまでカキ養殖による収入のなかった夏場の収入源として大きな期待がもたれる。また、カキ養殖や真珠養殖等の既存の養殖施設・資材を活用してアサリ養殖を行うことで初期投資を軽減する効果も得られている。

・普及性と今後の発展方向

受賞者の取組みは注目度が高く、県内外から多数の視察者が訪れている他、受賞者自ら他地区を訪問し、活動の紹介を通じて技術の普及を図っている。また、採苗から垂下式養殖までの一貫した技術だけではなく、採苗技術の応用によるアサリ資源の回復等、個別技術の応用性、汎用性が高いことが特徴である。

今後は、研究機関との連携の下、より効率的で生産性の高い養殖技術を確立し、体系化していくとともに、技術普及を通じて得られた産地間のネットワークを拡大し、産地間での情報交換の場を構築する意向である。